

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 羅臼町立春松小学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}

☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫 _____）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒086-1841

北海道目梨郡羅臼町八木浜町190番地

E-mail _____

Website _____

幼児児童生徒数 男子 53 名 女子 47 名 合計 100 名

幼児・児童・生徒の年齢 歳～ 歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

(記入例)

当校は、「郷土の発展に役立つ実践力のある社会人となるために、勤労を尊び、仲良く助け合い、豊かな情操と高い知性をもち、何事もやり抜く心身ともに健康な子どもを育てる」ことを学校教育目標として、ESDを「豊かな関わりを通して学習する理念と方法」と捉え、ESDの実践を通して「自立の力と共生の心を育む」力の育成を目標とした。

具体的には、1環境、3防災、4生物多様性、6国際理解、8人権平和、9健康・福祉、10食育を柱に、①知床の自然に係わる活動、②地震と津波に係わる教育、③外来種と熊に係わる学習、④外国語に係わる学習、⑤人権に係わる学習、⑥身障者に係る学習、⑦知床の海の幸に係わる学習を行った。

① 知床の自然に係わる活動

全校の児童が知床の自然に触れ合い、自然から学ぶ活動を行った。

1, 2年生は郷土資料館, 3年生は「熊越えの滝トレッキング」, 4年生は「英霊山登山」, 5年生は「知床五湖散策」, 6年生は「羅臼湖登山」を行っている。

②地震と津波に係わる学習

避難訓練において、自助を育む指導に加え、6年生を対象に北海道教育大学釧路校の境教授と研究室学生の協力を得て、地震による被害についての学習と「国後島があれば、津波の被害はないのだろうか」のテーマの下、大がかりな津波発生実験装置を使った実感を伴った学習を行っている。

③外来種と熊に係わる学習

知床財団の協力を得て、世界自然遺産の知床であっても、日本の固有種とは異なる外来生物が生息することをハチの学習を通して学んでいる。

また、熊の生息地であることを踏まえ、熊に遭遇した時の対処方法、熊を取り巻く生態環境について学習を行っている。

④外国語に係わる学習

教育委員会の協力を得て、ALTを派遣してもらい、全校児童に対して外国語活動を実施している。1・2年生は11時間、3・4年生は24時間、5・6年生は36時間にALTに協力をいただき、楽しく外国語に触れ、コミュニケーションの素地を育む学習を行っている。

⑤人権に係わる学習

羅臼町人権委員の方を招いて、全校で人権集会を行った後に、6年生に人権教室として、いじめについて考える学習を行っている。

⑥福祉に係わる学習

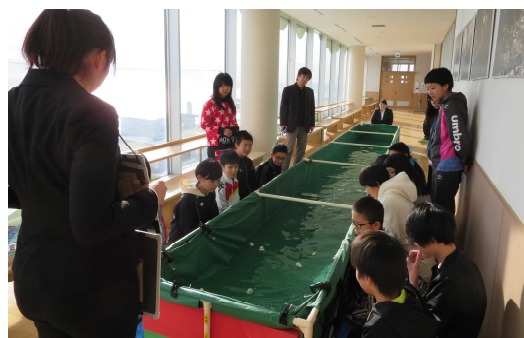
3年生以上において、聴覚障害、視覚障害、高齢者について、羅臼町社会福祉協議会の協力を得て、体験的な学習を行っている。講師として、社会福祉協議会の方にも授業に参加してもらい、質問をしたり、町の施設について改善できそうなところを話したりする学習を行っている。

⑦知床の海の幸に係わる学習

地域の婦人部や指導漁業士、漁業協同組合青年部の協力を得て、羅臼で獲れる魚介類を使って、魚のさばき方を教えてもらったり、創作料理を一緒に作ったりする学習を行っている。



①知床の自然に係わる学習



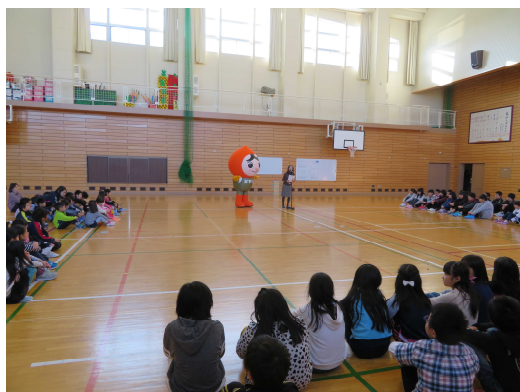
②地震と津波に係わる学習



③外来種に係わる学習



④外国語に係わる学習



⑤人権に係わる学習



⑦知床の海の幸に係わる学習



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

羅臼町で発刊している副読本『知床学』

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

学校の教育目標の重点項目の具体策として、「ＥＳＤの推進を図ることによる総合的な学習の時間の充実」を掲げ、今年度１年間を通して、年間指導計画等の改善や見直しを行っている。指導内容については、今後も続けてＰＤＣＡサイクルに沿って、改善を図る。保護者に対する学校評価アンケートにＥＳＤについての評価を入れることも考慮して見直しをする。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

年間指導計画の見直しを毎年、全教員で行っている。学年や役割を超えて、取り組むことによって、全教員が関心をもって日々指導に当たる態度が見られる。登山等の活動においては、担任だけの引率に任せるのではなく、ガイド役として関係機関の協力を得ながら進めている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

全町児童生徒によるユネスコスクール発表会を行っている。地域住民も観覧することもでき、大勢の前で発表する機会があることで、表現力の育成につながっている。地域住民の参加数が少ないため、開催日、場所、ＰＲの仕方等について見直しが必要。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

地域の各種関係機関、企業、地域の専門家などに協力を得ながら、体験的で協働的な学習になるよう計画を立てている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400 字程度）

基本的に今年度の取組を継続する。

・ふるさと学習(知床学を含む)、情報、福祉を総合的な学習の時間の学習内容の柱とする。教科の枠を超えた横断的・総合的な学習、探究的な学習、児童の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした総合的な学習時間の計画と実践、改善を通して、次の学習につなげ、より一層思考力の育成を目指す。

・土曜授業を生かした地域の人的・物的資源の積極的な活用を重点的に行い、今年度の取組をさらに発展させる。